

改革の拠点:いくつかの分野か？

https://www.laprenti.com/articles/article_auto.asp?news_id=1350&one=1

政府は修業学習の改革に関する政策の報告書を出版している

2017年11月10日に発せられた政府主導の修業学習改革に関する政策は、フランスにおける修業学習の効果的な改善の道筋を特定すべきです。

この政策の報告書はこの(訳注:2018年)1月30日火曜日に経済社会環境協議会(CESE)の労働雇用部門のシルビー・ブリュウネ部長によってミュリエル・ペニコー労働大臣に提出されました。

首相官邸マティニオンでの騒ぎ

報告書が差し戻されたのはミュリエル・ペニコーとエドゥアール・フィリップが優先度について合意しておらず緊張している時でした。協議の最初から「小手先の改善ではない真の改革」と擁護していた労働大臣は、首相が州のためにまったく政治的に加担していることに反対し、修業学習の予算を専門職分野に移すという解決策に反対して立ち上がった。

競合する職業リセとCFA

この熱意ある書類では、それぞれが利害を守ろうと試みていますが、国民教育大臣はまったく明白な留保を公表しています。しかし、反面、CFAは職業リセと競合することがないことを確約されています。

修業生は得点を数える

「誰が何をするか」が分かる前に、なさねばならないことをまず議論することを求めるミュリエル・ペニコーは、お金を集めます。「誰が何をするか」の問題は一般的な労働移動に方向転換する政策の最初の計画に突如として変化しています。州に対抗するMEDEF(フランス経営団体)は、それぞれがその団体のもとに集まって、執政協議会、専門職組合、政府関係者において支持を見出すことを試みています。今週には首相の支持を得て強力な支援を見つけている州に有利です。

U2P(職人と自由業の組合)のアレン・グリセ代表は次のように嘆いています:少し馬鹿げている。若者は財政的にそれがどのようなパイプによって通過するのかを知りたいとは思っていない。

合意だけの改革

この1月30日にシルビー・ブリュウネが提出した報告書は合意的なもので:最近の2か月の政策を総括して提出された44の提案です。全体の措置ではむしろ肯定的と思われ、(提案34で提起された)分野に向けて部分的に移行している裁判権を除いて見るべき激変は起こっていません。し

かし、財政の問題は明確には取り組まれていません。なぜだか分るでしょう。

雑音が飛び交っている廊下で、少し離れて、CFAの予算は契約に応じて評価されます一施設に登録されている生徒数に応じて一そして専門職分野によって管理されるでしょう。

すべての州は新しいセンターを開設することについて拒否権を行使することができます。予算の5-10%を保留しておくことができ、職業リセの周囲で半径30kmの圏内にまったく新しいセンターを開設することを防ぐことができるでしょう。

この最後の示唆は首相からなされたものですが、すべての州がそれに好意的というわけではありません。大部分は重荷を放棄する用意ができていますが、それはとくにMEDEFによって職場体験の将来の税の一部が課せられ続ける可能性があるという条件に強く非難しての拒否権に基づいています。

政府がその報告書で留保している実現の影響を知る前に、シルビー・ブリュウネは「過渡期について特に周到に留意しなければならない」と警告しています。

システムL' APPRENTIでは政策の44の提案の事案を全体に公開しています。(下記のURLで参照)

https://www.lapprenti.com/articles/rapport_consultation_apprentissage.asp